

①

実施概要

1 本業務の内容

(1) 業務の目的

色麻町に來訪する観光客は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、滞在時間が短く、來訪者の再訪意識に必要な体験できる施設が不足している現状であります。

これらのことを踏まえ、従来の観光施設のような「モノ」への集客ではなく、色麻町ならではのことができるような「コト」を発掘し、その磨き上げと活用の方向性を検討することを目的に、本町の魅力を掘り起こし、交流人口の増加につながる誘客を促進するための過程で必要となる各種支援につなげていくために実施しました。

(2) 業務の概要

令和4年度交流人口増加のためのコンテンツ創出戦略策定委託業務で出された「色麻町30の魅力」をもとに、「磨くべき3つのコンテンツ」に関する住民参加型のワークショップを開催しました。

ワークショップの開催方法は、参加者全体による全体会と参加者で希望する方による3つの部会とし、本町ならではの誘客につながる提案を出していただきました。

また、ワークショップの開催にあたっては、専門家を派遣し、本町の発展に寄与する出口を見据えて、観光やマーケティングに関する分析を行い、色麻町ならではのことにに関する提案を行いました。

(3) アドバイザーについて

ワークショップでは、以下の2名の方に出席いただき、ご意見・ご助言をいただきながら進めました。

■宮城大学 事業構想学群 准教授
佐々木 秀之 氏

■宮城大学 基盤教育群 特任助教
佐藤 加奈絵 氏

②

ワークショップの開催報告

1 実施概要

(1) 開催趣旨

令和4年度に実施した『「色麻の魅力発掘！」ワークショップ』において、検討された「地域資源を掘り起こし、活用の可能性」についてさらに掘り下げ、令和6年度以降の具体的な事業の展開につなげていくためのワークショップを開催しました。

(2) 実施概要

実施回数：全9回（全体会3回、各部会2回ずつ計6回）

参加者：応募のあった方 18名

場所・時間：色麻町農村環境改善センターほか

(3) 実施スケジュールとテーマ

令和4年度ワークショップにてとりまとめられた3つの「磨くべきコンテンツ案」をもとに、①空間的コンテンツ②施設のコンテンツ③飲食コンテンツの部会を形成し、全体会と各部回を交互に、計9回開催しました。

回	日時	場所	テーマ
第1回 全体会	令和5年8月1日 19:00~21:00	色麻町農村環境改善センター 多目的ホール	キックオフ、色麻の魅力の再確認
第1回 飲食コンテンツ 部会	令和5年8月24日 19:00~21:00	うめもんや	各部会ごとの今後の展望を検討
第1回 空間的コンテンツ 部会	令和5年8月30日 19:00~21:00	農業伝習館 研修室	
第1回 施設のコンテンツ 部会	令和5年9月1日 19:00~21:00	かっぱのゆ 創作活動室	
第2回 全体会	令和5年9月26日 19:00~21:00	色麻町農村環境改善センター 多目的ホール	中間報告、掘り下げたい内容を検討
第2回 空間的コンテンツ 部会	令和5年10月13日 19:00~21:00	かっぱのゆ 創作活動室	具体的な事業展開の落とし込み
第2回 施設のコンテンツ 部会	令和5年10月17日 19:00~21:00	かっぱのゆ 創作活動室	
第2回 飲食コンテンツ 部会	令和5年10月19日 19:00~21:00	うめもんや	
第3回 全体会	令和5年11月20日 18:30~21:00	色麻町農村環境改善センター 多目的ホール	事業提案のまとめ、最終報告会

検討結果のまとめ

※シートのまとめ結果 ※赤字は検討中に出された意見

深める！色麻の魅力！ワークショップ 事業提案シート

空間

プロジェクト名

自衛隊の魅力発掘プロジェクト

趣旨 自衛隊演習場との連携についての深掘り

なぜこの提案？

- 色麻にあることは知っているけど、実は関わりがこれまでなかった
- 町民でもどんなことがされているか知らない人は多い
- 自衛隊が好きな人は全国に一定数いて、そういった人にとっては魅力のある施設になるのでは？
- 全国的に自衛隊と連携した観光振興の事例もある！
→これから色麻の個性的な観光資源になる可能性がある！
- **すでに自衛隊モニター（ヘリの試乗など）や加美農業高等学校での炊き出しなど、自衛隊独自の取り組みがある。**

どんなことができそう？

- 演習場・敷地内の見学ツアー
- 自衛隊と訓練体験
- 自衛隊とサバイバルゲーム（サバゲー）大会
- **鬼ごっこやかくれんぼなどでも自衛隊の凄さを体感できる**
- 自衛隊と雪合戦大会

どこでやる？

- 王城寺原演習場内
- イベントは演習場外でもできそう？

誰がやる？

- いろんな人が参加できるとよい。個人や家庭単位でも参加できるようになるとよい→子ども・公民館事業・地域活動との連携も
- 町外で出店やワークショップの場を探している人もいる
- 色麻に住む外国人との文化交流も兼ねられそう

何が魅力？

- 今まで入れなかった・知らなかった場所に入れる
- 自衛隊の凄さ、「ホンモノ」を体感することができる

どんなことが期待できる？

- 将来的には自衛隊のPR、入隊促進につながる
- 町民にとって、演習場への理解が進み身近なものになる
- 自衛隊演習場が色麻の観光資源として有名に！



事業実施にむけて…

内容の確認と
実施主体を
考えてみよう！

優先度	内容	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降	誰が？
1	演習場・敷地内の見学ツアー	ツアー内容の企画・調整	町民向けツアーの開催・モニタリング	町民向けツアーの開催 町外向けツアーの企画・開催	定期開催 将来的に「女性自衛官」にフォーカスしたイベントなど	町 (バックアップ)
2	自衛隊と訓練体験	内容の企画・調整	子どもの向けなど、町民向けツアーの開催・モニタリング	町外向けツアーの開催・モニタリング	定期開催	町 (バックアップ)
4	自衛隊とサバゲー大会	内容・実施場所の企画・調整	プレ大会の実施	大会の開催		・実行委員会 ・専門業者の協力 町 (バックアップ)
3	自衛隊と雪合戦大会	内容・実施場所の企画・調整	町内大会の実施	町内大会の実施 自衛隊参加	大会の拡大	町 (バックアップ)

進めるにあたって必要なこと・協力してもらいたい人・組織など

- ・まずは自衛隊に協力を依頼し、了承してもらう
- ・町民への理解から広めて行く必要があるため、地域の人に関わりを持ってもらう
- ・サバゲーは専門的な企画内容になるため、町以外の共催の組織が必要か
- ・イベントの実施にあたっては町以外の観光振興を進める組織の検討も必要

深める！色麻の魅力！ワークショップ 事業提案シート

空間

プロジェクト名

「野生のピザ窯」プロジェクト

趣旨 バーベキューを中心としたアウトドア活動についての深掘り

なぜこの提案？

- 色麻には広大な自然と豊富な農産物に恵まれている！
- これらを活かしてキャンプやバーベキューができる場所を増やしていきたい！
- 一方で、バーベキューができる場所は近隣にもある。他の自治体にはない色麻ならではの特色がほしい！
→「ピザ窯」など他にはない魅力づくりへ！

どんなことができそう？

- バーベキューができる場所の整備
- 「野生のピザ窯」づくり

どこでやる？

- 愛宕山公園はバーベキュー以外のが適しているが、火気の取り扱いなど、安全性を確保しながら現状のルールを変えていく必要がある
- **愛宕山公園はバーベキュー以外の公園の活用方法全体を含めてしっかり考えていく必要がある**
- かつばのゆの近くにあると、温泉と合わせた魅力づくりができる（穀菜センターの敷地、別館側の駐車スペースなど）
小規模で実験的实施ができそうなど愛宕山公園より、実現可能性が高いのではないが

誰がやる？

- 公共施設の協力
- ピザ窯づくりなどは公民館事業などの連携により、地域の人たちと協力してつくることもできる
- 地元食材の調達のため、農家や JA、スーパーなどとの協力

何が魅力？

- ゆったりとした時間や空間の中でバーベキューを楽しむことができる
- おいしい色麻の農産物

どんなことが期待できる？

- 「アウトドアのまち」としての色麻の知名度 UP！
- 色麻の農産物の消費 UP！
- 色麻でお金を落とすところが増える！



事業実施にむけて…

内容の確認と
実施主体を
考えてみよう！

優先度	内容	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降	誰が？
2	バーベキュー場の整備 (愛宕山公園)	公園全体の整備・活用方針の検討 火気の取り扱いにむけた状況把握	条例改正 ルールづくり	施設整備		町 (バックアップ)
1	バーベキュー場の整備 (一時的な開催)	かっぱのゆ周辺で、テスト的に実施 場所の選定	施設・土地 管理者との 合意形成 人数を限定した 小規模の開催	規模を拡大しての 開催	定期開催	町 (バックアップ)
3	ピザ窯づくり ※移動式、不定期で イベント開催	協力者の確保 ワークショップ チームで再集結！ 試作過程を動画にして情報発信 「野生のストーリーづくり」 色麻の野菜とリンゴを 収穫して ピザ作りに活用	試作品の作成 イベントの開催 バージョンアップ 協力者の拡大 色麻町産食材の確保 ピザセットの販売 ピザの作り方のレクチャー 公民館(発酵教室)	定期イベントの開催 町内外のイベントに出店 将来的には 固定のピザ 窯を設置		町 (バックアップ) 直売所や農家と連携

進めるにあたって必要なこと・協力してもらいたい人・組織など

- バーベキュー場はまとまった敷地のある愛宕山公園が望ましいが、火気が取り扱えないため、条例改正やルールづくりが必要。
→現在、愛宕山公園は「指定された場所以外のたき火、炊はん、宴会、野営」が禁止。
一般的に「所有者・管理者の許可が下りない場所」「周囲に燃え移る可能性がある場所」「周囲に住宅がある場所」などでの火気の扱いが禁止されている。
- 「色麻=ピザ窯」を浸透させていくためには、町民の理解や利用促進が必要になるため、地域の人たちと作り上げていくことが望ましい。

深める！色麻の魅力！ワークショップ 事業提案シート

施設

プロジェクト名

色麻の「最終目的地化」プロジェクト

趣旨 「最終目的地化」に向けた色麻ならではの「市場」の開催についての深掘り

なぜこの提案？

- 多くの人を呼び込むためには、道の駅があるといいが、整備までに時間やお金がかかってしまう。
→「風の駅」のような特定な場所にとられない市場があるとよい！
- 色麻の農産物が購入できる場が限られている（**そもそも売れる人がいない**）ため、売場を増やしていきたい！
- **次世代・子どもが関わり、農業に関わる人が増える**
- かつぱのふるさとまつりは開催しているが、来訪者は町民がほとんどであるため、シャクヤクまつりに次ぐ、ニュースに取り上げられるイベントがほしい

どんなことができそう？

- 市場の開催
- 農産物に加え、家庭菜園用の「苗」を売る、農業用品のバザー
家庭菜園をする人が増えており、「**苗**」は**集客性のあるコンテンツになる**
- 色んなものを出品できるバザー（**加美マルシェが参考**）
- **専門家による家庭菜園のレクチャー、貸し農園**

どこでやる？

- まずはわかりやすい場所で開催。その後はランダムに。最終的に色麻のことを知ってもらう
- 加美農業高など学校との連携できれば集客性が高い！
- 保育所跡地を活用できないか
- 色麻は「通り過ぎる」イメージ
→国道457号沿いは交通量多いので集客のチャンスがある
- かつぱのゆの駐車場でも開催ができる→温泉利用者の来訪も期待
- **穀菜センターでは加工・体験の場としても活用できる**

誰がやる？

- いろんな人が参加できるとよい。個人や家庭単位でも参加できるようになるとよい→子ども・公民館事業・地域活動との連携も
- 町外で出店やワークショップの場を探している人もいる
- 色麻に住む外国人との文化交流も兼ねられそう

何が魅力？

- 豊富な農産物をはじめ、知らない色麻の魅力を知ることができる！
- **作物が育つ過程（喜び）が大事である**

どんなことが期待できる？

- 町民が広く市場に関わり、色麻のことを好きになる！
- 市場をきっかけに、色麻を知って来てもらえる人が増える！
- **農業継承につながる！**
- **生産者と購入者がつながる場になるとよい！**



事業実施にむけて…

内容の確認と
実施主体を
考えてみよう！

優先度	内容	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降	誰が？	
1	市場の開催	コンセプト 決め	開催候補地の 選定	開催	開催候補地の 再選定	開催	町 (バックアップ)
			情報発信	情報発信 メディアへの発信			
2	協力者・ 担い手の確保	運営組織の立ち上げ	地域連携	運営基盤の確立			
		関係者への 声掛け	農協・農家との連携 加美農業高など学校との連 各施設との連携 個人出店者の募集	裾野を広げた 出店者の募集		<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールや加美農業高など学校の授業の一環として実施する イベントで育てて一次の世代へ 町 (バックアップ)	
3	一般の出店者の 確保・育成	専門家によるレクチャー・指導 (苗の選び方・美味しい作物の育て方)	貸し農園による担い手育成	美味しい漬物の漬け方など、食材の加工方法の レクチャー	市場への 参加 購入物を その場で加工でき るワークショップ など	<ul style="list-style-type: none"> 苗の選び方や作物の教え方のレクチャーをしてもらえないか 地域にレシピを持っている人がいる(梅干しなど) POPの作成や、その場で説明できる人の確保 口コミで地域の人にアプローチ 	

進めるにあたって必要なこと・協力してもらいたい人・組織など

- 全体の運営を行う組織が必要（実行委員会の立ち上げ、商工会の協力など）
- やってみよう！しかままちづくりの会や公民館で地域づくりに関わっている人たちへの声掛け
- できるだけ裾野を広くたくさんの人が参加してもらえるようにする
- 将来的には町外との交流やコラボなど新しい流れを生み出したい
- 農協などの協力のもと主催グループをつくり、その人たちから地域の人に直接アプローチして裾野を広げていく

深める！色麻の魅力！ワークショップ 事業提案シート

飲食

プロジェクト名

食 DE よみがえる「かっぱの町」プロジェクト

趣旨 ソウルフードの開発、えごま・かっぱの PR についての深掘り

なぜこの提案？

- ・そもそも「色麻のソウルフード」が思いつかない
- ・「色麻=かっぱのまち」をもっと PR していくべき！
- ・特産品である「えごま」をもっと PR したい！

どんなことができそう？

- ・色麻町産のきゅうりとえごま醤油をつかった山形の「だし」的な加工品の普及（古漬け）
- ・「麻葉丼^{まやくどん}」「かっぱセット」の開発
（色麻の米、えごま、だし、卵を使い、それ以外は各店舗のオリジナルで）
- ・加美農業高など学校とコラボした BKT サンド（えごま豚・きゅうり・たまご）の開発
- ・各店舗を巡るスタンプラリーの開催

どこでやる？

- ・町内の飲食店と連携して、「麻葉丼^{まやくどん}」・「かっぱセット」の販売
- ・加美農業高など学校とコラボして BKT サンドの販売（高校生提案のメニューづくり）
- ・直売所などで「だし」を販売し、お土産としても活用

誰がやる？

- ・飲食店や商工会の協力・連携は必須
- ・加美農業高など学校との協力
- ・JA・農家の協力により、必要な農産物を確保したい

何が魅力？

- ・色麻の特産品・農産物をふんだんに使った新たなソウルフード！

どんなことが期待できる？

- ・「麻葉丼」を目的に色麻に来てくれる人が増える！
- ・町内の飲食店や加美農業高など学校との連携が深まり、新たなメニューの開発も期待できる！
- ・かっぱを知るきっかけになる！



事業実施にむけて…

内容の確認と
実施主体を
考えてみよう！

優先度	内容	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降	誰が？
1	麻葉井 かつぱセット メニューの開発 PR戦略	「だし」の開発 メニューの詳細の検討 JA・農家の協力関係の 確立	町民向け イベント 開催 (スタンプラ リー) 広報等 町内向けのPR	町外向け イベント 開催 (スタンプラ リー) 各種メディアへのPR	だしの 6次産業化	<ul style="list-style-type: none"> • えごま農家（公社） → 飲食店が買うし くみ • 飲食店との合意が 必要 町 (バックアップ)
2	加美農業高等 学校との コラボ	協力関係の 構築	メニューの 企画	イベントでの 販売	各種イベントでの販売 新たなメニューの開発 加工品の開発	<ul style="list-style-type: none"> • 各地区での協力 • ボランティア友 の会の協力 町 (バックアップ)

進めるにあたって必要なこと・協力してもらいたい人・組織など

- メニューづくりは飲食店や商工会の協力が不可欠。飲食店に同じメニューを提供してもらいながらも、各店舗の個性がでるような工夫も必要。
- えごま豚は町内の飲食店で十分に取扱えるほど、流通がしていない。
- 「だし」については、色麻町産のきゅうりやえごま醤油を使うことが前提であるため、各店舗で必要な量を確保できるよう、JAや農家と調整する必要がある。
- **新商品開発の思いつきと良い物を真似る姿勢をもつ。**
- **ビジネスの視点から飲食店、商工会の協力をもらう。**
- **加美農業高等学校にアイデアレベルで意見をもらったり、野菜を提供してもらう。**
- **「じゅうねんソース」の活用、野菜スティック×じゅうねんソース。**
- **えごま、ニラ、玉ねぎ、白ごま、とうがらし、ニンニクを活用した「万能醤油」の開発。**

③

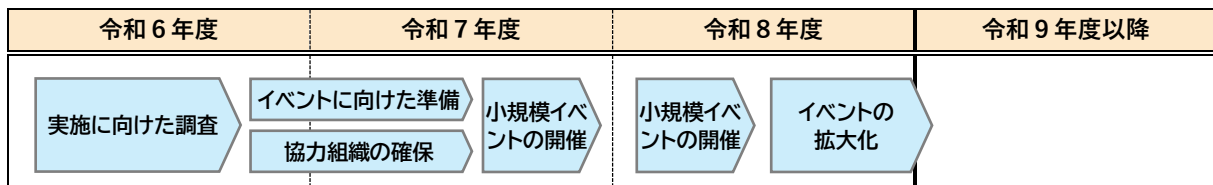
ワークショップの実施結果を 踏まえた事業実施の提案

1 空間的コンテンツに関する提案

① 雪の活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● ネガティブなイメージのある冬季に、「雪」を逆手に取る ● SNS 映えする場所への訴求力が高い ● 雪がない地域の子どもや外国人観光客への訴求力が高い
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 色麻町で雪を使ったイベントを実施する（雪合戦、かんじき体験、鍋、アイスジョッキ、ライトアップなど）
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園 ● そのほか、雪原が広がる広い場所を確保する
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園（指定管理者制度の活用を検討） ● 町（情報発信など） ● イベントの実行委員会の立ち上げ ● 常設の場合は民間業者などによる協力
進めるにあたって 必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園で実施する場合、駐車場の確保が必要（雪でも行くことができる場所の整備）

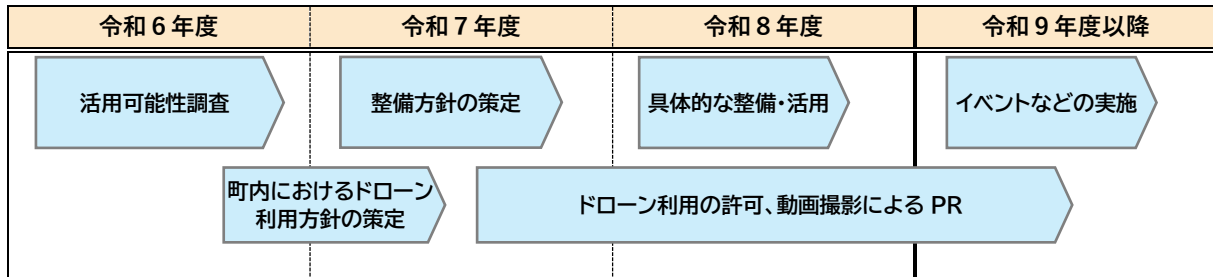
事業実施イメージ



② 「何もない空間」の創出

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 「何もない原っぱ」など、色麻の自然環境を活かし、「何もない」ことを逆手にとったコンテンツの造成
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 原っぱの造成 ドローン撮影など許可 上記を活かした動画撮影誘致など
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 町内各所 例) 小栗山字下山下一番など(薬師堂から船形山方面へ車で約6分)
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> 町(土地取得、整備、情報発信、ドローン活用方針) 商工会(場所の活用、誘致活動など)
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> 整備地の選定(費用対効果、利用汎用性、トイレ・駐車場などの施設整備など) 土地所有者との交渉(買い取り、私有地の開放など) 県との調整

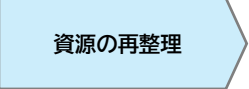
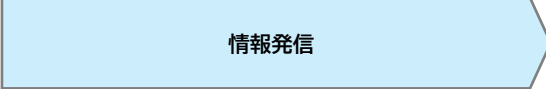
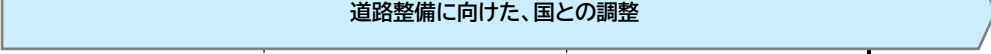
事業実施イメージ



③ 船形山方面の活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 船形神社への来訪者も年数名いる ● 船形山（大滝野営場・鈴沼）の魅力（冷たい湧き水、苔）のPR・活用を進め、町全域を観光地化する
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 船形山（キャンプ場・鈴沼）の魅力のPR・活用 ● アクセス性の向上 ● オフロード利用者へのPR
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 船形山方面（薬師堂以西）
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 大滝野営場（指定管理者制度の活用を検討） ● 町（情報発信など） ● 国（道路整備など） ● 仙台市、大和町などの近隣市町村（泉ヶ岳方面からの誘客）
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 船形神社は殿へのアクセスや、石碑の説明などの情報発信の強化が必要である ● 道路整備については、長期間の時間を要するため、一度に多くの来訪者を受け入れる体制整備は現実的に難しい。情報発信を強化していきながら、キャンパー、社寺仏閣来訪者、バイカーなど、来訪の可能性のある特定の層に対してPRしていく ● 神社のほか、眺望や滝、道路を横切る流水など、魅力的なポイントがあるため、資源を改めて整理しながらPRを進めていく

事業実施イメージ

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
 <p>資源の再整理</p>	 <p>情報発信</p>		
 <p>道路整備に向けた、国との調整</p>			

④ オフロードを活用したツーリズム

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の資源を活用した船形山方面への誘客
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● オフロード利用者への PR・情報発信
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 船形山方面（薬師堂以西）～泉ヶ岳方面の林道
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● オフロードのツーリングコミュニティ ● 町（情報発信など） ● 国（道路整備など） ● 仙台市、大和町などの近隣市町村（泉ヶ岳方面からの誘客）
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路環境が十分に整備されていない現状で、オフロードのツーリングを目的としたバイカーには一定の需要があるため、来訪促進するとともに、町内の各資源（かっぱのゆ、直売所、飲食店など）への誘客を強化する ● オフロードのツーリングは5名程度の少人数で活動する機会が多いため、特定のコミュニティよりも、各 SNS での発信により、情報を周知していくことが有効的である

事業実施イメージ

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
町内資源との連動した SNS による情報発信			
	インフルエンサーの協力による情報発信など		

⑤ キャンプ場の整備

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 東西の標高差を活用して、キャンパーのレベルに合ったキャンプ場を複数整備（東部が初心者向けで、西に向かうほど熟練者向けになる（大滝野営場）） ● ワークショップ提案事業である「野生のピザ窯プロジェクト」と連動した取り組みを進める
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 町中央部及び東部にキャンプ場の誘致
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園、花川河川公園など
実施主体協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園（指定管理者制度の活用を検討） ● 県（花川河川公園の場合） ● 町（整備、情報発信など） ● キャンプ場経営企業など
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たに整備する場合、土地利用などの確認、変更が必要になる ● 愛宕山公園については、火気が取り扱えないため、条例改正やルールづくりが必要になる ● 現在、愛宕山公園は「指定された場所以外のたき火、炊はん、宴会、野営」が禁止されており、一般的に「所有者・管理者の許可が下りない場所」「周囲に燃え移る可能性がある場所」「周囲に住宅がある場所」などでの火気の扱いが禁止されている ● 常設、デイキャンプのみの取り扱いなど、利用方法の詳細を確認する

事業実施イメージ

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降

2 施設のコンテンツに関する提案

① 宿泊コンテンツの造成

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊客の増加による滞在時間、消費金額の増加 ● 空き家を活用した宿泊施設の整備
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲストハウス・農泊、民泊の推進 ● 町内の宿泊コンテンツである農業伝習館とかがのゆアクセス性の向上
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業伝習館 ● かがのゆ近隣の土地及び空き家
実施主体協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園（指定管理者制度の活用を検討） ● かがのゆ（指定管理） ● 民間事業者の誘致
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ合宿の要素が強い農業伝習館での宿泊コンテンツを多方面に展開、PR していく ● 宿泊にあたって夜間コンテンツの造成を検討する ● 周辺住民の理解を得ながら農泊・民泊の誘致を進める ● 商業施設や宿泊施設がバス会社に業務を委託せず、送迎バスをサービスの一環として自社運行する場合は、普通自動車免許や大型自動車免許で運行は可能である（送迎バスなど運転手 - 職業詳細 - Job Tag - 厚生労働省より）

事業実施イメージ

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
農業伝習館での宿泊メニュー造成			
かがのゆとの送迎サービスの実施			
民泊に関する調査・研究	条例・規制整備	運用及び民泊の誘致	
	情報発信		

② かつぱのゆの活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 町の集客コンテンツであるかつぱのゆを最大限活用し、より多くの誘客を図る
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 足湯、テントサウナ、水風呂、ペットが入れる温泉などのコンテンツ造成 ● 温泉を活用した蒸し野菜の販売など
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● かつぱのゆ
実施主体協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● かつぱのゆ（指定管理） ● 町（情報発信など） ● サウナ、足湯などの専門業者
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年サウナ需要が高く、誘客性の高いコンテンツである ● 施設面の整備が必要であるため、十分な検討が必要 ● ペンションなどの宿泊施設を除き、ペットが入れる温泉は東北エリアでも少ない（宮城県内では遠刈田温泉、峩々温泉など）ため、ペット向けの温泉施設は訴求力の高いコンテンツになりうる

事業実施イメージ

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
各コンテンツの実現可能性の調査	整備方針の策定	具体的な整備・運用	運用

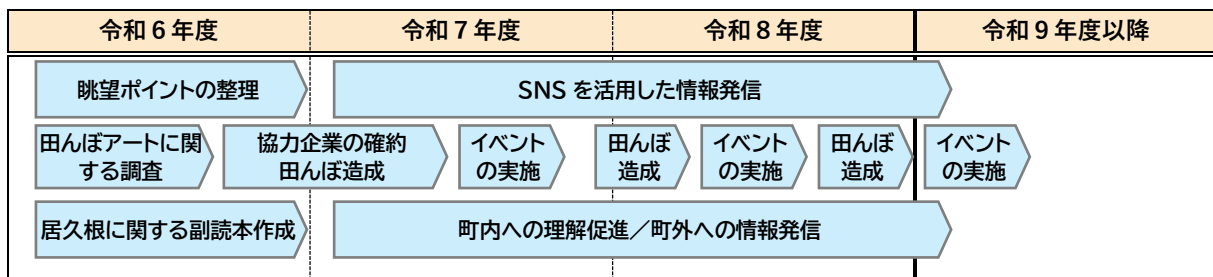
③ 花川周辺の活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 花川河川公園の活用 現状、観光資源がかつぱのゆと愛宕山公園となっているため、町の中央部に位置する花川河川公園を活用し、町全域の誘客を図る
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 花川河川公園でのイベント実施 ● かつぱ像の活用（町内におけるかつぱマップの作成など）
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 花川河川公園
実施主体協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 町（イベント共催、情報発信など） ● 県 ● 漁業組合
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 河川敷地の活用については、制限が多く、バーベキュー施設など、常設施設整備による活用が難しい ● 現在、川魚の放流などを実施しているが、定期的なイベント開催などによる誘客が現実的であると考えられる

④ 田園風景・居久根の活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 農業が盛んな色麻ならではの田園風景の活用や、大崎耕土の世界農業遺産登録を機運に、居久根に関するPRを強化する
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 田園風景・居久根の眺望ポイントの整備 居久根に関するPR 田んぼアートのほか、SNS映えするスポットの整理
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 色麻町内各所 標高の高い愛宕山公園や平沢方面からの眺望も活用する
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> 町（イベント開催、情報発信など） 各農家（居久根、田んぼアートへの協力） 田んぼアートに関する測量会社 近隣市町村（大崎耕土による連携） 商工会（情報発信など）
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> シャクヤクまつりのノウハウを活かし、夏場にも誘客できるイベントを開催する

事業実施イメージ



⑤ 愛宕山公園の活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業伝習館をはじめ、一年を通じて多くの人に愛宕山公園を活用してもらうため、新たな施設整備を含め活用方法を再度検討し、色麻町の観光拠点としての位置づけを確立する
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋内のコンテンツの充実 ● 周辺の小高いエリアを含め眺望ポイントして活用 ● 味彩館ふるさとで期間限定のビアガーデンの開催
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕山公園
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 町 ● 愛宕山公園（指定管理者制度の活用を検討） ● 町外を含む公園でイベントなどを行いたい団体
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> ● 1―⑤「キャンプ場の整備」での提案内容を踏まえて検討する ● 行政主導によるイベントの開催では、人材の確保や多様性のあるイベントの開催に限りがあるため、民間企業や一般の団体が主催するイベントなどを定期的で開催することについても検討する

事業実施イメージ

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
定期的なイベントの募集・開催			
整備方針の検討	条例・要綱改定	整備実施	
インフルエンサーの協力による情報発信など			

⑥ その他の施設コンテンツの提案

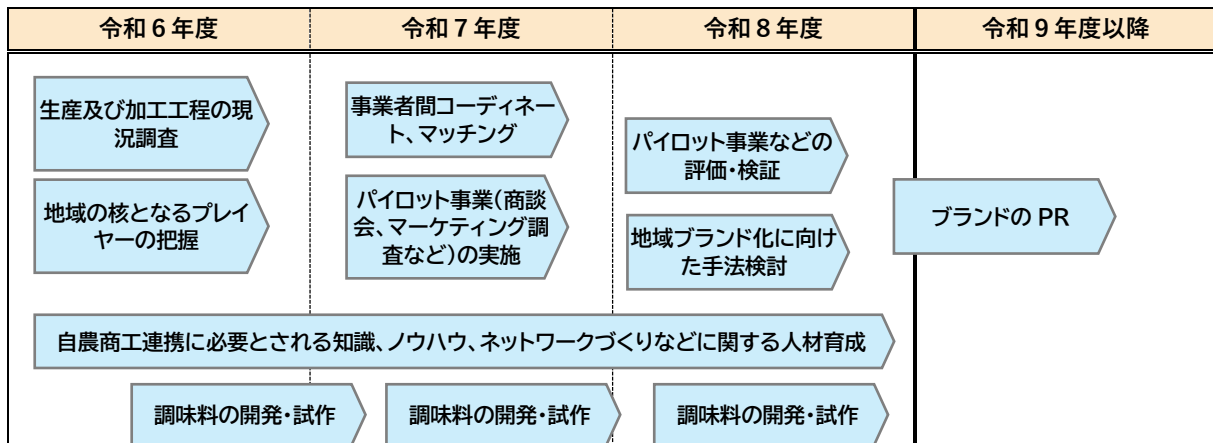
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅の整備、直売所の充実 ● 自衛隊車両を見ることができる公園
------	---

3 飲食コンテンツに関する提案

① えごまの活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 県内有数の生産地である色麻のえごまを全国に広げていく
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> えごまのブランド化 調味料の開発
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店 そのほか、調味料を開発できる場所を確保する
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> 生産者 加工業者 飲食店 加美農業高等学校 商工会 町
進めるにあたって必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化によるえごまの開発 一定数の生産が求められるため農家やJAと協力してえごまを確保して開発していくことが求められる

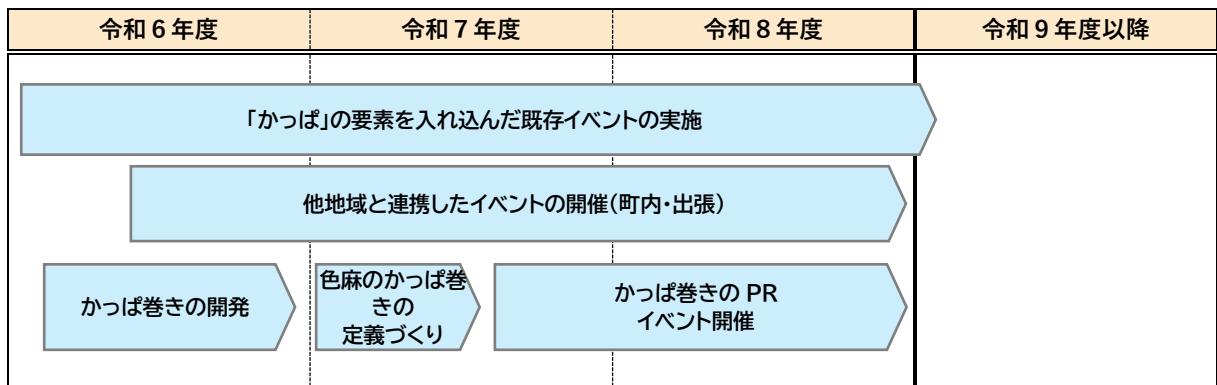
事業実施イメージ



② かつぱの PR とかつぱ巻きの活用

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 「かつぱのまち」というイメージを浸透させるため、色麻の食材を使ったかつぱまきを開発し、PRしていく
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景の再整理 かつぱにちなんだイベントの開催 かつぱ巻きの開発
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 色麻町内各所
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> 町民団体（やってみよう！しかままちづくりの会など） 町 商工会 生産者（きゅうり農家や JA） 加工業者 飲食店 かつぱにまつわる歴史がある他市町村
進めるにあたって 必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> 色麻の歴史的背景に基づきながら、多方面で活用されている「かつぱ」のイメージを浸透させていく かつぱ巻きは町内外に浸透させていく必要があるため、地域との連携や公民館事業などを通じて、町民にも認知を広めていく必要がある

事業実施イメージ



③ 四季を通じて「農」を体験できる場づくり

事業の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 体験農業ができる場をつくることで、「色麻の農産物」に関する認知を広める
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 体験農業の場作り
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 町内各農家
実施主体 協力組織	<ul style="list-style-type: none"> 農家・JA 商工会 町（情報発信） 教育機関
進めるにあたって 必要なこと・備考	<ul style="list-style-type: none"> 各農家に対して意欲的な農家の発掘ともモデルケースづくりを行う 農業伝習館での宿泊と合わせたコンテンツの開発を図る

事業実施イメージ

